

## 第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会（第8回） 議事要旨

日 時：令和2年9月10日（木）午後5時～7時

場 所：多摩市役所 401 会議室

出席者：

笹井 宏益委員（委員長）  
梅澤 佳子委員（副委員長）  
青木 ひとみ委員  
野口 享子委員  
五十嵐 亮委員  
小泉 雅子委員  
小林 攻洋委員  
松本 俊雄委員  
木村 治生委員  
岡村 志穂委員  
喜多 尚美委員

欠席者：なし

傍聴者：なし

## <会議次第>

1. 開会
2. 議事
  - (1) 第4次多摩市生涯学習推進計画の素案について
3. その他
  - (1) 第4次多摩市生涯学習推進計画策定スケジュールについて
4. 閉会

## <配布資料>

### 【事前配布】

- ・資料1 第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会（第7回）議事要旨（案）
- ・資料2 第4次多摩市生涯学習推進計画【素案】（令和2年9月3日時点）
- ・資料3 生涯学習推進イメージ図（3-A、3-B）
- ・資料4 成果目標案について
- ・資料5 掲載コラムについて
- ・参考資料 第3次多摩市生涯学習推進計画
- ・参考資料 第五次多摩市総合計画第3期基本計画

### 【机上配布】

- ・資料6 個別施策・事業例一覧表
- ・生涯学習推進イメージ図（別案）

## 1. 開会

(委員長よりあいさつ)

## 2. 議事

### (1) 第4次多摩市生涯学習推進計画の素案について

【事務局】

(資料2、3について説明)

【委員長】

イメージ図についてA案とB案がありますが、事務局はどちらが良いと思いますか。

【事務局】

個人的な意見ですが、実のなる木が描かれているB案が分かりやすいと思います。一方、A案は自由に学べるようなイメージがあります。

【委員長】

どちらかといえばB案が良いということですね。

みなさんはいかがですか。

【委員】

これはカラーでなく白黒で刷るのですか。

【事務局】

冊子では白黒ですが、ホームページ上ではカラーになります。

【委員長】

紙媒体が白黒ということですね。

【委員】

B案は情報量が多すぎる印象があります。この半分以下のサイズに凝縮されて掲載となると、A案が見やすいかと思います。

【委員】

個人的にはA案を気に入っています。小人のサイズが様々で親子の小人もいるので、よく考えてくださったと思います。

【委員】

B案の実がなっている樹木が分かりやすいので、A案とB案のそれぞれ良いところを合わせるのはどうでしょうか。

【委員】

基本はA案で、そこにB案の樹木を持ってくるのも良いと思います。

【委員】

このイメージ図は4ページに入るわけですが、その場合と今のA4サイズでは比率が違うのではないかと思います。

**【事務局】**

このラフ図は、あくまで原案で、これをもとに制作担当が比率等も考えて補正いたします。

**【委員】**

A案、B案どちらも情報量が多いので、横の部分は要らないのではないのでしょうか。小さくなりすぎて字が読めません。イメージ図は字が少なくシンプルなのが良いです。また、基本理念ですが、6ページでは「学びあいがつむぐ“健幸”なまち」と、健幸という言葉にクォーテーションマークを付けているので、この図にも付けるのが良いと思います。それから、A案、B案とも全く別の発想、パターンはなかったのでしょうか。

**【事務局】**

別の案も検討されていますが、以前の絵からあまりにも違うものを出すと混乱してしまうとの判断があり、前回のイメージをある程度踏襲した図を出しました。最終的には必要最低限の情報量にとどめるのが望ましいと思っています。

**【委員】**

この情報から削れる要素を考えました。個人が情報収集をして他者と交流し、仲間との活動に広げて地域と関わる、個人の活動プロセスが中央に示され、両脇には多摩市としての生涯学習施策で図ができていゆえに情報量が多くなってしまっています。これを4ページのスペースに入れるにあたり何かを削るのは結構難しいかもしれません。スペースを広げるか、あるいは山と家の絵をなくして文字中心にするかです。

**【委員長】**

計画の構造そのものが大目標、中目標、小目標、具体的な施策というように正三角形、ヒエラルキー型になっており、大目標や中目標だけに絞ることができる。あえて細かいところは捨てて中目標レベル以上だけを入れることは可能だと思います。パッと見て分かるものにしたければ、項目を減らす方が良いのではないのでしょうか。細かいところは本文を読んでもらえば良いと思います。

**【委員】**

そういう意味では両脇にある施策は要らないと思います。

**【事務局】**

個人の学習者と学びあう仲間、それから学習の仕方を示していれば、吹き出しのところにある施策を説明書きのよう記載しなくてもよいということですね。

**【委員】**

文字を読む意欲のある方にとっては、この1枚で生涯学習のことが理解できるので良いと思いますが、本文を読めば分かるというのはそのとおりです。ですから、このイメージ図に興味を持った方が本文にまで目を向けてくれると考えるのであれば削っても良いと思います。情報量が多いと見る気がしません。

**【委員】**

この図を小さくして4ページに入れるのが難しいのであれば、表紙に入れてはどうですか。表紙が無理なら、横長になってしまうかもしれませんがイメージ図を大きくしても良いと思います。これだけの情報を4ページのこのスペースにはめ込むのは無理な気がします。

【委員長】

A案では生涯学習を推進していくダイナミズムがない、B案の樹木の方がまだダイナミックに見えるというご意見もありました。もう少し動きがあればと思います。

【事務局】

少し補足します。委員長から時間軸の奥行きが欲しいというご要望がありました。このイラストでは表現しきれいていませんが、矢印が手前から奥に伸びていくようなイメージの別案もあります。また、要素をシンプルにとの指摘もありましたので、小人や山などを極力排除し、どちらかといえば計画のポンチ絵に近いイメージで表現したものです。

【委員長】

パッと見て分かることが大事だと思います。

別案をいただきましたが、メッセージとしてはこの案の方が分かりやすいと思います。

【委員】

根幹が広がって育っていく印象です。上の矢印も面白く、独創的な絵だと思います。ホームページに出すのは、採用した絵と全く同じものですか。

【事務局】

はい。計画として出来上がった完成品がそのまま載ります。

【委員長】

今配っていただいた別案と、先ほどのA案、B案のどれが良いですか。

【委員】

イラストとしてはB案がとても可愛いのですが、内容がわかりにくいと思います。A案は文字的にはスッキリしています。中央部分は配られた別案、その上にB案を使って、周りをA案という形で3つを統合させては良いのではないかと思います。

【委員長】

両端を多少削っても良いと思います。図柄としては上だけがB案、下は別案ということですね。

【委員】

矢印を果実にして、その果実を分散させれば良いと思います。

【委員長】

複合案を出していただいたので、それで進めてよろしいですか。

【委員】

私も木の方が良いと思いますが、白黒にすると木に見えないという問題があります。葉っぱ等を入れないと煙に見えてしまいます。

【委員長】

では、B案の樹木をベースにして、今日配られた別案も参考にしたいと思います。

そして、言葉ももう少しシンプルにしていいただければと思います。

【事務局】

委員長がおっしゃる、時間的な奥行きを出すのは難しいところですが、その点はいかがでしょうか。

**【委員長】**

出せれば良いですが、難しいのであれば仕方ありません。

**【委員】**

キャラクター（小人）を計画の要所に入れることは可能なのですか。

**【事務局】**

コラム欄や表紙に入れていきたいと考えています。

**【副委員長】**

木についてですが、けやきのように全体的に伸びやかに広がり、みずみずしい感じをデザイナーに検討いただきたいです。描かれていない木の上半分がどうなっているかと想像の翼が広がる、この先の展開に想いが行くような形をお願いしたいと思います。

**【委員長】**

樹木をどのようにデフォルメしていくかということですね。小人はどうしましょう。

**【副委員長】**

若い方たちに手に取っていただきたいと考えると、若い方がご覧になってどうか大切だと思います。生涯学習推進という、どうしても堅くなってしまう部分があります。それも重要ですが、若い方や子育て中の方、外国人の方等多様な方たちにビジュアルで見えていただけるよう工夫いただければと思います。

**【委員長】**

小人にはこだわらないわけですね。

**【委員】**

小人を出すのであれば、どんどん出していく方が良いし、下の方にもっといれればと思います。また、パッと分かってもらうためには小人に躍動感を出すしかありません。図の両サイドについては、文字情報と絵に関連性がないのでイメージしにくいと思います。絵で示すところと文字で示すところを区別したシンプルな図が分かりやすい気がします。

**【委員長】**

基本的には樹木のイメージで、言葉の取捨選択も含めて考え、市民が主役と分かるようなキャラクターを入れるということですね。みなさんのご意見をふまえて作り直しをお願いいたします。

**【事務局】**

(資料 2、4 について説明)

**【委員】**

資料 4 の最初の成果目標に「SNS 媒体の認知度の向上」とありますが、素案 16 ページの個別施策を見ると発信が主で、整合性が取れていません。認知度の向上が成果目標であれば、例えばお年寄り等スマートフォンやタブレットを持っていない方への対応策が必要だと思います。

**【事務局】**

推進項目 1 「広報・情報提供」の成果目標は「SNS 媒体の認知度の向上」にしたいと思っています。ニーズを測る中、例えば 10 代の認知度が 50% であるのに対し 70 代の認知度が 10% しかなかった

場合の原因は何かと探れるというところはありません。

**【委員】**

スマートフォン等を操作できない方たちが多いのは現実としてあって、情報をいくら発信されてもそういう方たちには届きません。公民館通信という紙媒体もあり、その辺とのバランスです。すべてSNSに頼ってしまうことの危うさをふまえながら計画を立てていただきたいと思います。

**【委員】**

資料説明の中で発信数を確認するとおっしゃっていましたが、数ではなく内容が大事だと思います。認知度の向上といってもいつの何と比べるのか漠然としていますし、市民のニーズも一方的に発信するだけでは把握できません。

**【委員長】**

いつの時点と比べて増減したかは定量的な数値があれば分かります。内容については比べるのが難しく、主観的な評価にならざるを得ません。先ほどの事務局説明でもありましたが、外部評価委員になってどんどん評価するのも良いのではないかと私は思います。

**【委員】**

他の市にはない特別なことを多摩市が発信しているのであればみんな見るとは思います。単純に発信数の目標が50回だからそれを目指して何となく発信するだけでは誰も見ないし、全く意味がありません。

**【委員】**

発信数というのは結構重要だと私は思っています。多摩市のインスタグラムやツイッターを見たのですが、24時間前に多摩市役所からの空はこんなにきれいですという投稿がありました。そういう日常的なものであったとしても、私たちの住んでいる多摩市はやはり綺麗なのだと思えます。ただ、その前の投稿が1か月前や3か月前では多摩市のSNSの存在を忘れてしまいます。ですから、発信数の多さというのは認知度を上げることにある程度はつながると思います。1日1回あるいは2日に1回の頻度で発信してみてもどうでしょうか。SNSを活用している方からの認知度が1~2年後にどれくらい上がったかという検証につなげる意味では良いのではないかと私は思います。

**【委員】**

市役所の誰が発信しているのですか。

**【事務局】**

秘書広報課が発信しています。

**【委員】**

行政が全てするのではないという発想が大事です。市民同士がSNSを通してできるような何かをつくってほしいと思います。

**【委員長】**

行政計画ですので、どうしても行政が中心になってしまいますが、生涯学習はやはり学習者である市民が主体です。市のSNSでもホームページでも仕組みだけつくり、あとは市民に任せるという発想がとても大事だと思います。SNSの良さというのは官も民もボーダーレスなところなので、そこでの市

民団体や民間施設等とのネットワーク化が大事になると思います。

【委員】

コロナの影響で「たましめし応援隊」という多摩市内の飲食店が経営を維持するためのプロジェクトが立ち上がりました。市の公式インスタグラムやツイッターで、ここでテイクアウトできるという情報のリンクを貼っているの、多摩市内における民間の活動を紹介するツールとしては良いのではないかと思います。

【委員】

そういうものまで評価しなければならないのですか。私は行政がどれだけネットワークを広げて協力団体をどのくらい増やしたかという方が評価として正しいと思います。

【委員長】

それを市民協働と言うわけです。

【委員】

成果目標の表記の仕方としてはこれで良いが、それをどう測るかということですね。

【委員】

私も成果目標の設定を4つの目指す方向レベルから11の推進項目レベルに落とし、細かく見ていくことは良いと思いました。しかしながら、推進項目の中できちんと測っているという納得感がどこまで得られるかは疑問で、ある程度の妥協はやむを得ない気がします。例えば推進項目1「広報・情報提供」では高齢者にも情報が行き渡ることが重要ですが、全部網羅すれば良いかということとそれも違うように感じ、こういう決め方しかないかと思いました。ただ、何を測っているかよく分からないものが結構あります。「自治会・サークル等の活動参加環境の向上」「この1年での学びの向上」というのは何を測っているのでしょうか。

【事務局】

コンパクトな表現で、分かりづらい部分があると思います。何を成果目標とするかは完全には決まっています。

【委員】

具体的な指標はこれからつくっていくわけですね。

【事務局】

例えば公共施設であればコミュニティセンター、公民館の活動なのか利用状況なのかというのをまだ決めていない部分があります。ただ、今回の成果目標のタイトルに関しては、できる限り多摩市の最上位計画である総合計画の最終目標にも近づきたいと思っていて、そことも紐づけられるような目標設定をと考えています。

【委員】

10番目の成果目標の日本語がおかしいと思います。「『子どもがのびのびと過ごし、学び成長できるまち』と感じる市民の向上」の「市民の向上」とは何ですか。例えば“市民の数”という言葉が適切だと思います。

【事務局】

表現については検討し、修正します。

【委員】

向上というのは状態なので、やはり数の増加の方が良いと思います。

【委員長】

修正をよろしくお願いします。

【委員】

横文字の表現がたくさん出てきます。用語解説が載っていて、例えばICTは「情報通信技術のこと。」とありますが、これであれば日本語で良いと思います。

【委員長】

日本語の方が分かりやすい言葉は日本語を使えば良いと思います。

【委員】

コンソーシアムというのも分かりません。

【委員長】

コンソーシアムを日本語に直すのは難しいですね。ネットワークというのは結構流動的ですが、それを強固にしたものがコンソーシアムです。ネットワーク組織でありつつ永続性を持たせるようなものをコンソーシアムと言うのですが、いずれにしても日本語に直せるものは直した方が良いと思います。

生涯学習推進計画の指標は経済的なものとは違って難しく、言い方は悪いですが雑ばくな数値や評価にせざるを得ません。そのことを承知のうえで計画をつくらねばならず、それゆえに定性評価、つまり人の主観的な評価を入れ込んでいく必要があります。定性的な見方を加えることによって、きちんと評価できるのだらうと思います。

【事務局】

(資料5について説明)

【委員長】

コラムの内容は紹介してもらえないのですか。コラムというのは計画の一部なわけで、本来であればこの策定委員会で議論する必要があります。

【事務局】

申し訳ございません。現在、各関係部署に執筆を依頼しており、集約が終了次第、委員の皆様にご確認いただければと思います。

【委員長】

コラムの内容だけでなく、全体を通しての意見照会をお願いしたいと思います。

【事務局】

10月上旬に課長級の会議があり、そこでイメージ図、目標、コラム等全部埋まった素案が確定しましたら、委員の皆様にご送付いたしますので、ご意見がありましたら頂戴できればと思います。

【委員】

ここでSDGsについて言わせていただきます。SDGsの目標が間違っているわけではありません

が、国際連合の活動を信じて重きを置いていることを私は懸念しています。国連の言葉を借りるのは簡単ですが、多摩市の目標を自前でつくりたかったと私は思います。前回は申しましたが、実際の深い意味をきちんと把握して言葉を使い、自分たちの理念を持って行動することが大事だと思います。SDGsという言葉が素案のなかに散りばめられており、そういうものを大事にしていることに逆に危惧を覚えています。

【委員長】

多摩市の行政計画としてはSDGsをどのように位置づけているのですか。

【事務局】

第五次多摩市総合計画の第3期基本計画の中にSDGsの理念とリンクしているところがあるので、まちづくりを進めていけばSDGsに寄与するという見方をしています。

【委員長】

SDGsは2015年の国連決議で2030年までの目標になっていて、我々の生涯学習推進計画の期間とほとんど重なっています。その間にSDGsを多摩市の行政計画の中に位置づけたのであれば、生涯学習推進計画においても触れざるを得ないと思います。

【委員】

SDGsを多摩市の行政計画の中に位置づけているのですか。

【事務局】

総合計画の8～9ページに17の持続可能な開発目標が載っており、目標4に「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」とあります。

【委員長】

17の目標を全部達成できるはずがないので、多摩市なりの取捨選択をすれば良いと思います。

【委員】

計画の中で地域委員会構想というのが出ていました。これが本当に作られていけば結構面白いものになると思います。

【事務局】

企画課が所管する自治推進委員会というものがあります。そこで試行的に取り組んでいきたいということで、東寺方小学校区と諏訪中学校区でモデル事業を進めています。

【委員】

資料6の推進項目3、個別施策⑥場の提供のパルテノン多摩についての文章が「市民の文化活動の拠点として、学びの発表の場として活用できる施設です。」となっていますが、パルテノン多摩を開館した当時のコンセプトは高度な芸術・文化を身近で鑑賞できるというものでした。ただ単に市民の学びを発表する場ではなく、芸術・文化を鑑賞できる場という文言も入れていただきたいと思います。

【事務局】

市民の生涯学習活動という視点に特化したため、このような書き方をしています。

【委員】

市民の生涯学習活動には芸術・文化の鑑賞も含まれていると思います。自分たちが発表するよりも、

きちんとしたものを見る方が大事な学習なので、そこをなくしてはだめです。

【委員長】

他によろしいですか。

それでは、全体を通してご意見等ございますか。

【副委員長】

事業例のところの「しています」と「します」、この2つの言葉の使い方を確認していただきたいと思っています。35～36ページの(3)ですが、「多摩市においても」から始まる文章が2回出てきています。それから4ページ、計画の位置づけについて書かれている2段落目の終わりに「自ら障壁を取り除こうとする人を増やすことを目指します。」と書かれていますが、「障壁」という言葉が引っ掛かりました。“可能性を切り拓く”や“自らを成長させる”という表現の方が良いと思います。

【委員】

その方がアクティブなイメージになって良いと思います。

【委員長】

社会教育学では課題という言葉を使います。自らの可能性を切り拓くというフレーズは前向きですね。

【副委員長】

障壁という表現にまでふみ込む、そのように表現したい強い意志が事務局側にあるのでしょうか。

【委員長】

障壁というのは言い過ぎなので、もう少し前向きな表現に変えたいと思います。

【副委員長】

6ページの一番下、「健幸なまち」のところに「世代の多様性があり」と記載されていますが、「世代の」という言葉を入れる必要はありますか。多様性というのは世代のことだけではないと思います。

【委員】

多様性という言葉の中には世代だけでなく人種のことなどもあるので、「多様性があり」だけで良い気がします。

【委員長】

「世代の」は削除しても良いですね。

【委員】

削除するか、あるいは“多様な世代の市民の誰もが”にしても良いかもしれません。

【副委員長】

24ページ、関戸地球大学院の事業例が「市内大学の教授等に各大学の特性や専門性を活かした内容の講義をしていただき」となっていますが、関係者としては“講義を提供し”で良いと思います。それと、「内容の」という言葉は要らない気がします。

【委員長】

全体を通して読んで、適切な表現を考えたいと思います。

【委員】

用語解説が付いていますが、そこから本文に飛べるよう該当ページを表示しても良いかと思っています。

**【委員長】**

今後についてですが、事務局からメール等での意見照会があるということでした。

**【事務局】**

ご意見等頂戴できればと思います。よろしくお願いいたします。

**【委員長】**

計画の決定権限というのは、この策定委員会にあるわけです。本来は専門委員会に出して意見をいただいたものを再度この策定委員会で諮る必要があります。その手続きができないのであればメール等で意見を募り、最終的には委員長である私に決定権限を与えていただきたいということです。

**【事務局】**

コラムについて、より分かりやすく工夫しようと思い、当初のスケジューリングに合わなかったところがございます。策定委員会の決定権限をふまえない日程調整になり反省しています。

10月2日の専門委員会でも意見が出るとお思いますので、それをふまえて修正したものをみなさまに送付いたします。期間は短くなるかもしれませんが、ご意見をいただければと思います。

具体的なスケジュールは、また整理いたします。

### 3. その他

#### (1) 第4次多摩市生涯学習推進計画策定スケジュールについて

**【事務局】**

策定委員会でまとめた素案は、最終的には市長が本部長となっている本部会議で決定します。その本部会議の開催は10月30日の予定です。その後11月にパブリックコメントを実施します。そこでお寄せいただいた意見に基づいて素案の修正を行い、原案という形で来年の最終となる策定委員会でご確認いただきたいと思いますと考えています。1月を予定しており日程は改めて調整いたします。

**【事務局】**

ここで資料6を補足いたします。前回の策定委員会を経て市民に分かりやすい表現をということで関係課に記述を依頼したものです。メールでの意見照会の際に、用語解説に加えるべき文言なども併せて、ご意見をいただければと思います。

**【委員長】**

本日の会議はこれで終了させていただきます。みなさん、ご協力ありがとうございました。

### 4. 閉会

終了